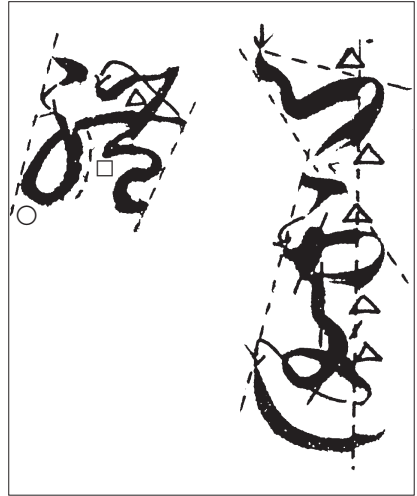


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

書譜 孫過庭



3、概観 〓 今月は節筆についての説明とします。「書譜」にはこの節筆が非常に多く用いられています。節筆とは筆線の途中に節ができるような筆遣いを言います。

「書譜」の真跡の写真が日本で紹介されたのが大正十三年だといふ。それまでは刻本(拓本)しか見ていなかったが、この節の意味するところがわからなかったが、松本芳翠氏が「孫過庭・書譜の新研究」と題する論文を発表し、この節筆があきらかになった。芳翠氏は、「竹の節のような形状をした不自然な筆致」に疑問を持ち、それは筆が料紙の折りに衝き当たってきたことを突き止めた。

この節筆は偶然ではなく、孫過庭は意識して書かれたと見るべきであり、やはり、ひとつの技法と考えるべきだと思います。

4、各字のポイント

心 真上から入筆、三点の左右の間隔は、一、二点間が狭く、二、三点間は広い。第一点はいちばん高く、次は第三点で第二点は低い。△部は全て節筆。△では押し、すぐに筆を引き上げ鋒先で。

遠 一画目の点は少し右を下げる。△三ヶ所は節筆。斜画は方向の違いを。終画は前画の意連から大きく構える。
體 ……は筆を押しゆき○で裏面。↓は意連。△は節筆。□で筆の裏面に。「〓」では筆を少し上に突き後末筆へ。

1、字句 〓 心遠體

2、形式 〓 半紙タテ使用。右に「心遠」、左に「體」と臨書し、「體」の下余白に落款「〓〓臨」と調和を工夫し書き入れる。

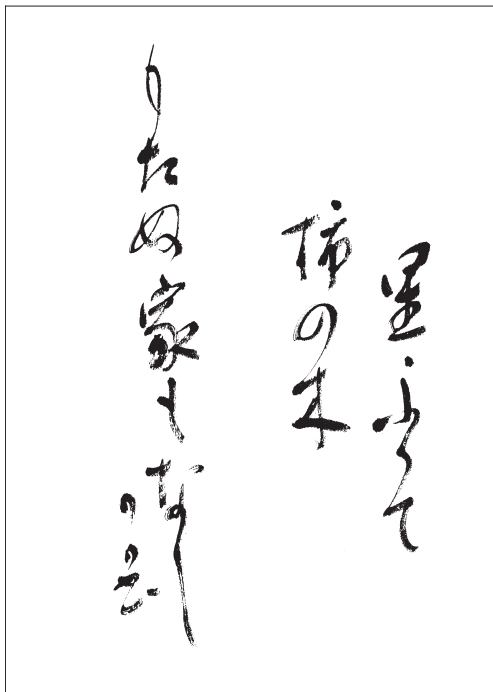
半紙課題(予告) (十一月二十二日締切)



平岡華雪先生書 海月澄みて影なし。(臨済録)

訳：海上の明月澄んで清きごとく、心中一点の妄念のないこと。

平岡華雪先生書 里ふりて柿の木もため家もなし(芭蕉)



第25回 全国書苑の集い

青柳香竹

梅雨明けの報道がまだかと思う程暑い日が続いた七月十七日の海の日、第二十五回全国書苑の集いは大崎ニューオータニイン東京で開催されました。会場に入ると書苑会の方に一杯の冷たい水を差し出され、心遣いに感謝し席に着きました。今回の講演は書道同文会常任理事でもある本会同人戸張丘邨様による「書の構成要素をさぐるー間（空白）・文字・線ー」の演題で、まず一つ一つの構成要素の大切さの説明がありました。これ

らは三位一体であり作品づくりには切り離すことの出来ない書の三要素であり、漢字・仮名・漢字仮名交じり書、どの書体にも通じることをプロジェクターと資料による分かりやすい説明で大変勉強になりました。しばらくの休憩後場所を変え、石田愁華様の司会により懇親会に入りました。高橋香樹会長の挨拶の後早速席上揮毫となり、高山林壑先生の隷書作品、石原春香先生の素敵な金箔の紙に配した仮名作品、そして高橋会長の縦・横の躍動感のある二作品。皆少しでも自分のものになりたい



戸張丘邨先生

思いで息を殺して筆先に見入っていました。さてその後酒井香雨先生の祝辞につき、外川霞夕先生の乾杯で会は始まりました。しばらくして授賞式となり、研究部書苑大賞 勝間凜華さん・赤木典子さん、準大賞 山口青華さん、かな部門賞 岩本抱水さん、春季推薦合格漢字部 岩崎芳鶴さん、随意部 勝野柏葉さん・



高橋会長



浅川昌蘭さん、仮名部 吉原炳香さんにそれぞれ賞状と賞品が授与されました。今後の活躍を望みます。招待の方々 御挨拶後今年はお楽しみの「会長の三択クイズ」でなごやかな雰囲気につつまれ、最後に向山朴花様の閉会の辞で、来年の再会を期し幕となりました。書苑誌は創刊以来休むことなし、と聞き平岡不二子先生はじめ会の方々の御努力のお陰と感謝いたし、今後のますますの発展をお祈り申し上げます。



石原先生



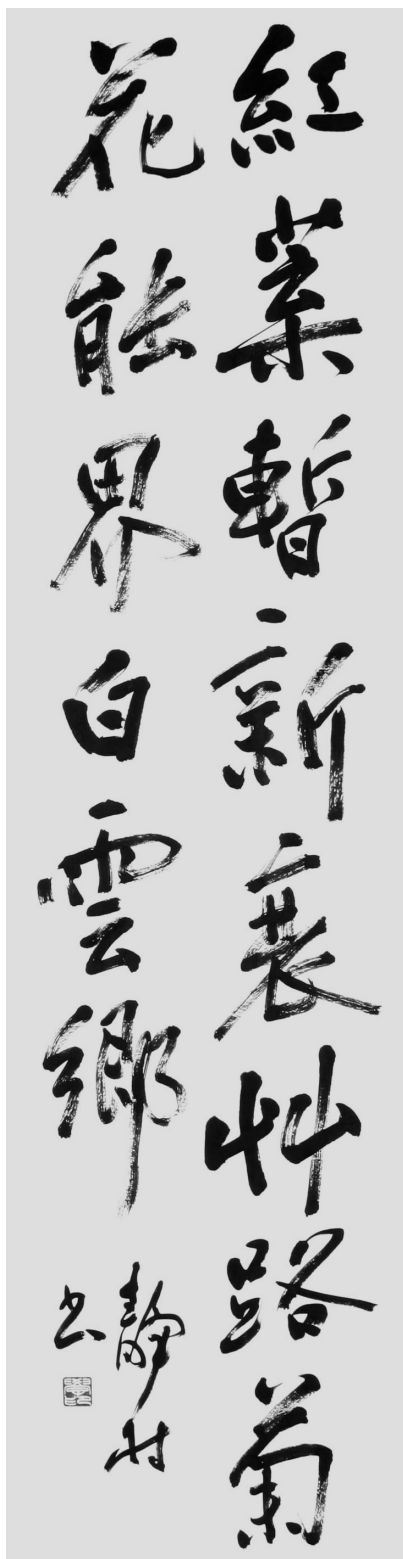
高山先生



受賞者の皆様

A
鈴木静村先生書

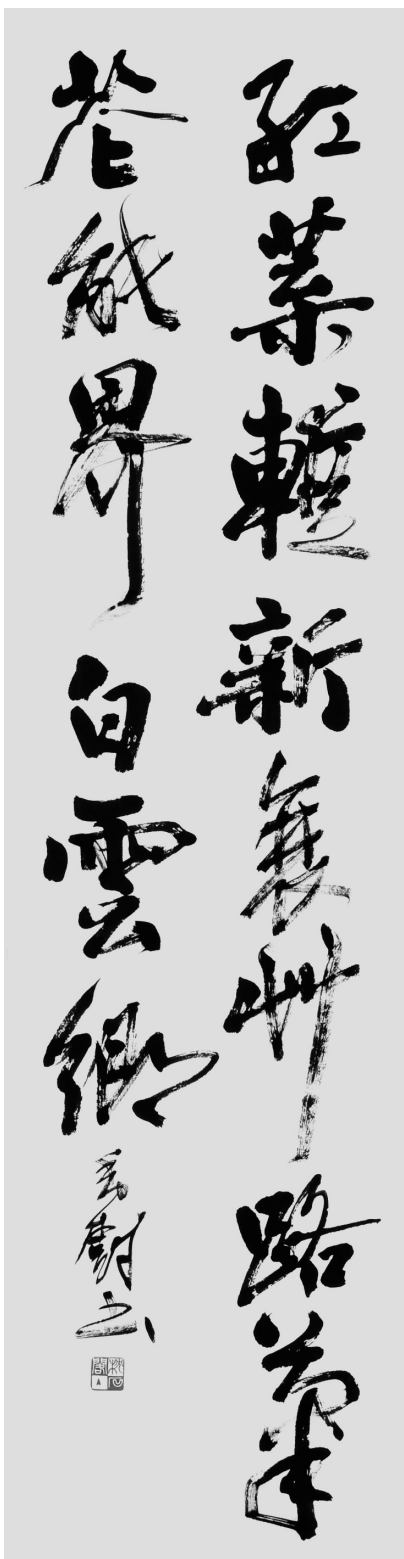
紅葉暫新衰草路 菊花能界白雲郷 (屈復)
紅葉暫く新たり衰草の路、菊花能く界す白雲の郷。



B

高橋香樹会長書

行書単体を主とし、墨継ぎは「艸・白」。紅糸偏の形に留意。葉異体字、案外書き易い。暫、同字。新、旁四線の傾き注意。衰、衣部直線の艸。艸、墨継ぎ、両縦画に変化。路、稍細めに。菊、内部は「未」、米も可。花、太細の工夫。能、旁「匕」も可。界、画の方向と接筆注意。白、一、二画突き筆で太め。雲、冠大きく四点軽快に。郷、偏、転折明快に。末画は強く抜く。



行書を中心とした作としました。「茅」は「葉」の異体字。「草」は「艸」を。「花」はこの形が隸書にあります。また、線の強弱を意識して書きました。短い縦画を特に太くし、長横画は細線にて。長縦画二本は方向を変えて。墨継ぎは「路」と「白」。

訳：秋草の生える道に新たに樹が紅葉してくる秋景色の中に、菊の花が咲き趣が深い。

予告 (十一月二十二日締切)

雲追孤鳥遠

雨約數峯奇

髣見輞川勝

思哉老畫師

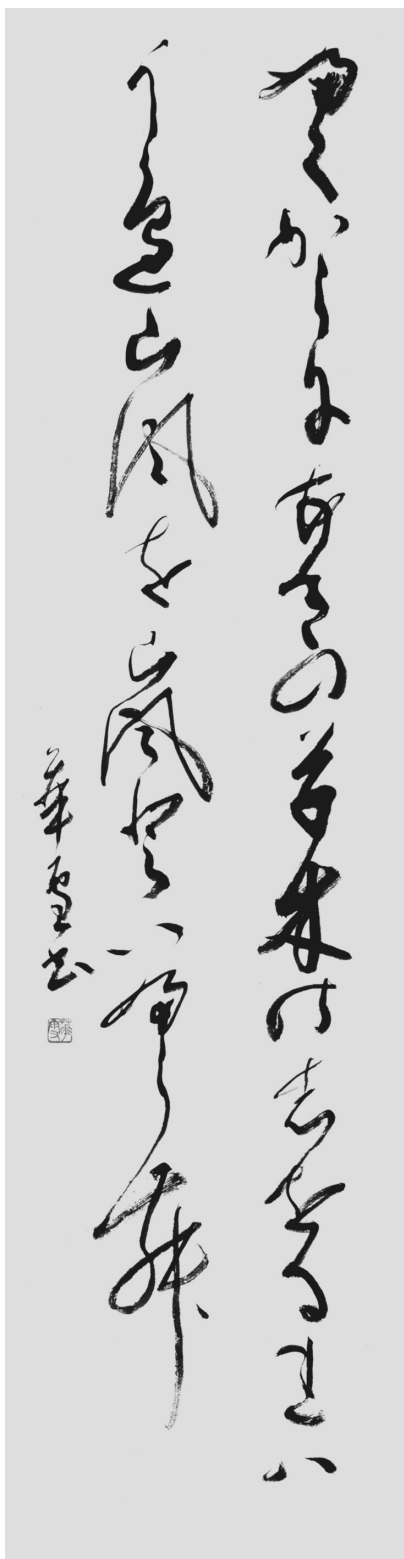
(土屋竹雨)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

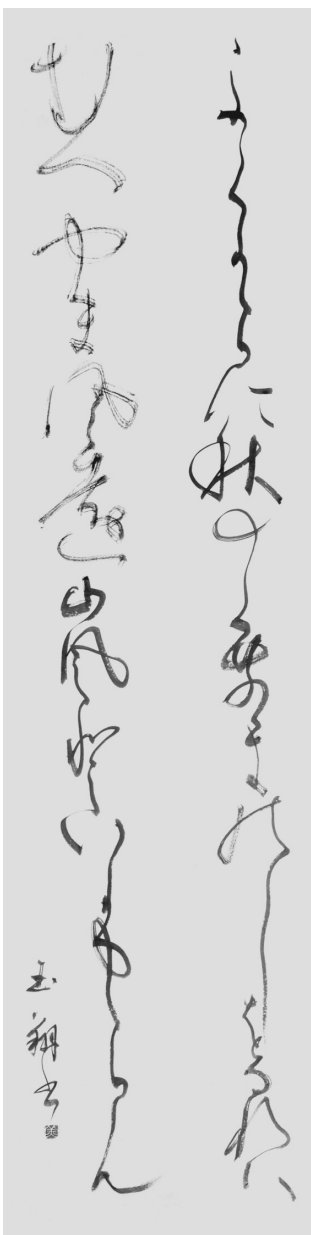
吹くからに秋の草木のしをるればうべ山風をあらしといふらむ (古今和歌集 文屋康秀)
 婦久からるあきの草木能志をる連八う邊山風を嵐登い婦ら舞



B

福田玉翔先生書

ふくからに秋のく散支能しをるれ八むへやま風遠嵐登い布らん



学び方

この歌は古今和歌集第五巻に収録されています。古筆では伝紀貫之高野切第二種の秋の歌の冒頭にあります。高野切は細字ですから、今回の半切は単に拡大したのでは面白くない作品になってしまいます。そこで今月は半切二行の原則の構成で書いてみました。即ち一行目は小ぶりに始めて、中盤でボリュームアップし下部はまた小さめの字形にします。中世建築のエンタシスの柱のイメージです。二行目の上部は反対に墨量が減ったところで文字と運筆を大きく華やかに見せます。そして二行目の真ん中より少し下で墨継ぎを一回して全体を引き締めます。二行目の下部の左に余裕の空間を作って落款を入れます。以上が一般的原則的な半切二行仮名作品の構成のパターンです。

海の日「書庭の集い」の戸張丘邨先生の講演で、「書の三要素」として余白・文字・線の説明がありました。今回の条幅もこの三要素を具体的に活用したものです。これから半年間歌が変わってもこの原則に則って創作してみようと思います。原則を体得すると創作がきつと楽しくなると思います。

予告 (十一月二十二日締切)

山里の風すさまじき夕暮に木の葉みだれて物ぞかなしき (新古今和歌集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条幅部 随意参考

高橋紫芳先生書

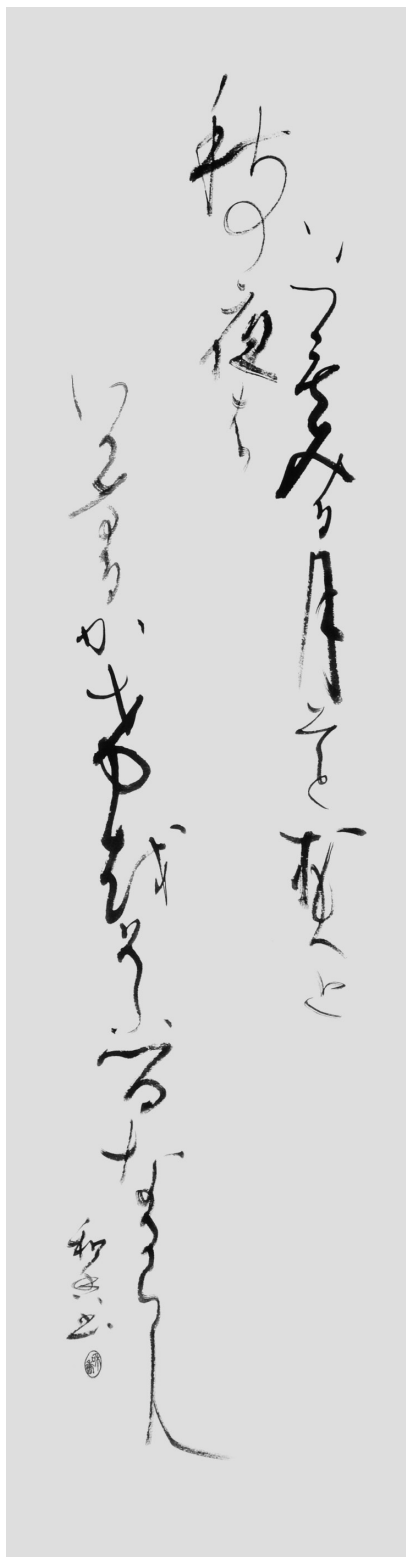
柳色漸輕秋雨暗。花香時為好風來。(張宛丘)
 柳色漸く輕く秋雨暗く、花香時に好風の為に来る。



訳：柳の色合は秋雨をへて次第にかげうすれ、蓮の花の香りは好風が吹き送るのである。

小林和香先生書

いつも見る月ぞと思へど秋の夜はいかなる影を添ふるなるらん(後拾遺和歌集 藤原長能)
 いつもみる月そと於もへと秋の夜者い可奈るか希越曾ふ留なるらん

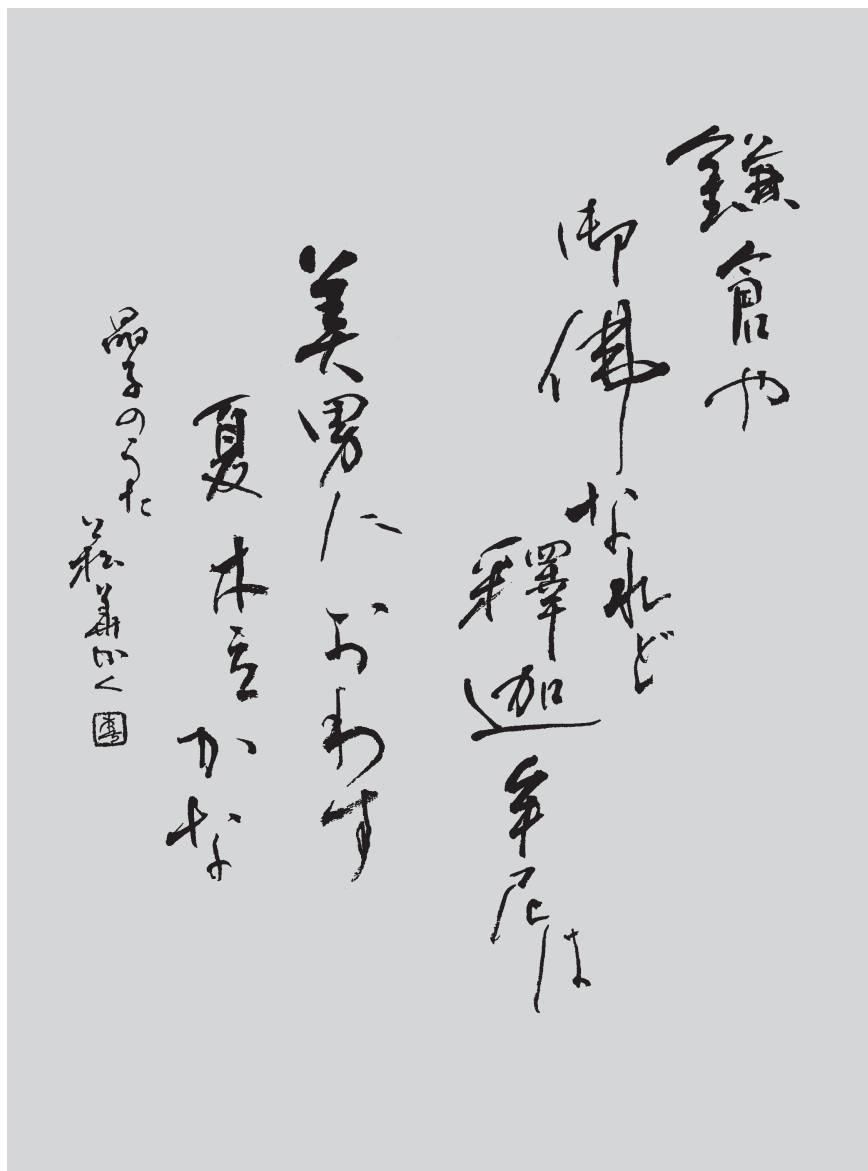


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

小暮 菘華 先生 書

鎌倉や御佛なれど釋迦牟尼は
美男におわす夏木立かな
与謝野晶子

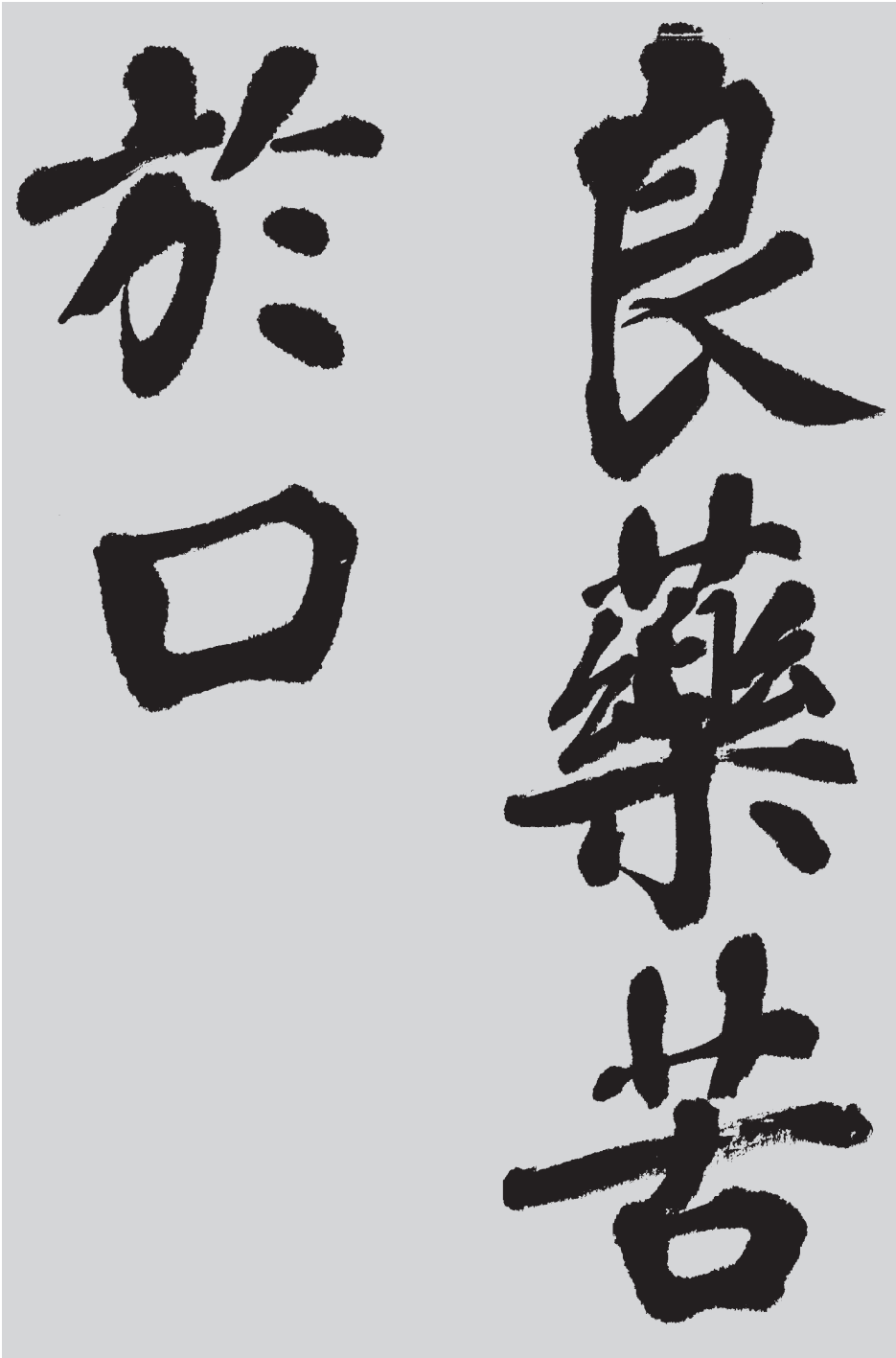
漢字が多いので煩わしくならないよう、余白を生かすこと。そして文字の表情に工夫を加える。「鎌倉や」は気張らず「佛」を大きく伸びやかに。「釋迦牟尼」(お釋迦様)の「釋」は著作権切れなので「釈」としても良い。お釋迦様を「美男」と捉えた美意識に共感を覚え、ユーモアを感じました。皆さんも歌の内容をとらえ、余白や文字に気配りしながら楽しんで書いて下さい。



与謝野晶子 (一八七八〜一九四二)
歌人・作家
大阪に生まれる。
女学校時代(十代半ば)から古典を学び短歌を作り始める。
処女作『みだれ髪』。六十四才で亡くなるまで三万首あまりを詠んだ。今回のうたは「恋衣」より。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

良薬口^に苦し^に (孔子家語)

訳：良い忠言は身のためになるが、聞くのがつらいというたとえ

〈簡単なようでは？〉

この一作は「口」がポイントです。「口」の位置、「於」との間のとり方、字の大きさ、太さ：等。さらに、大事な落款との調和、これまた「力」の見せどころ——。草冠の筆順、タテ・ヨコ・タテで私は書いていますが、教科書式に、ヨコ・タテ・タテどちらでも可。

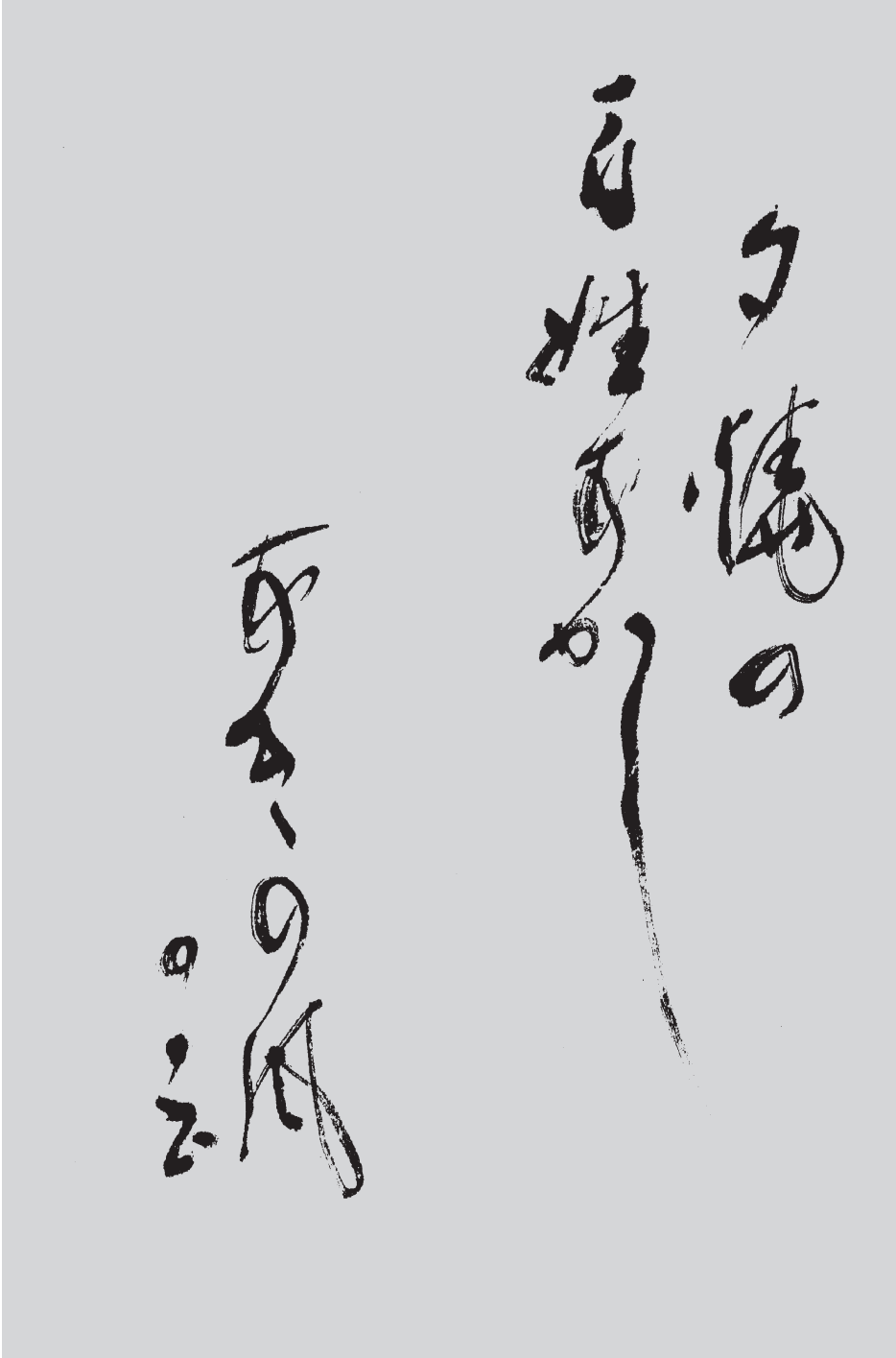
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

夕焼の百姓赤し秋の風(許六)

夕焼の百姓あかしあきの風



〈背臨によって「力」を〉

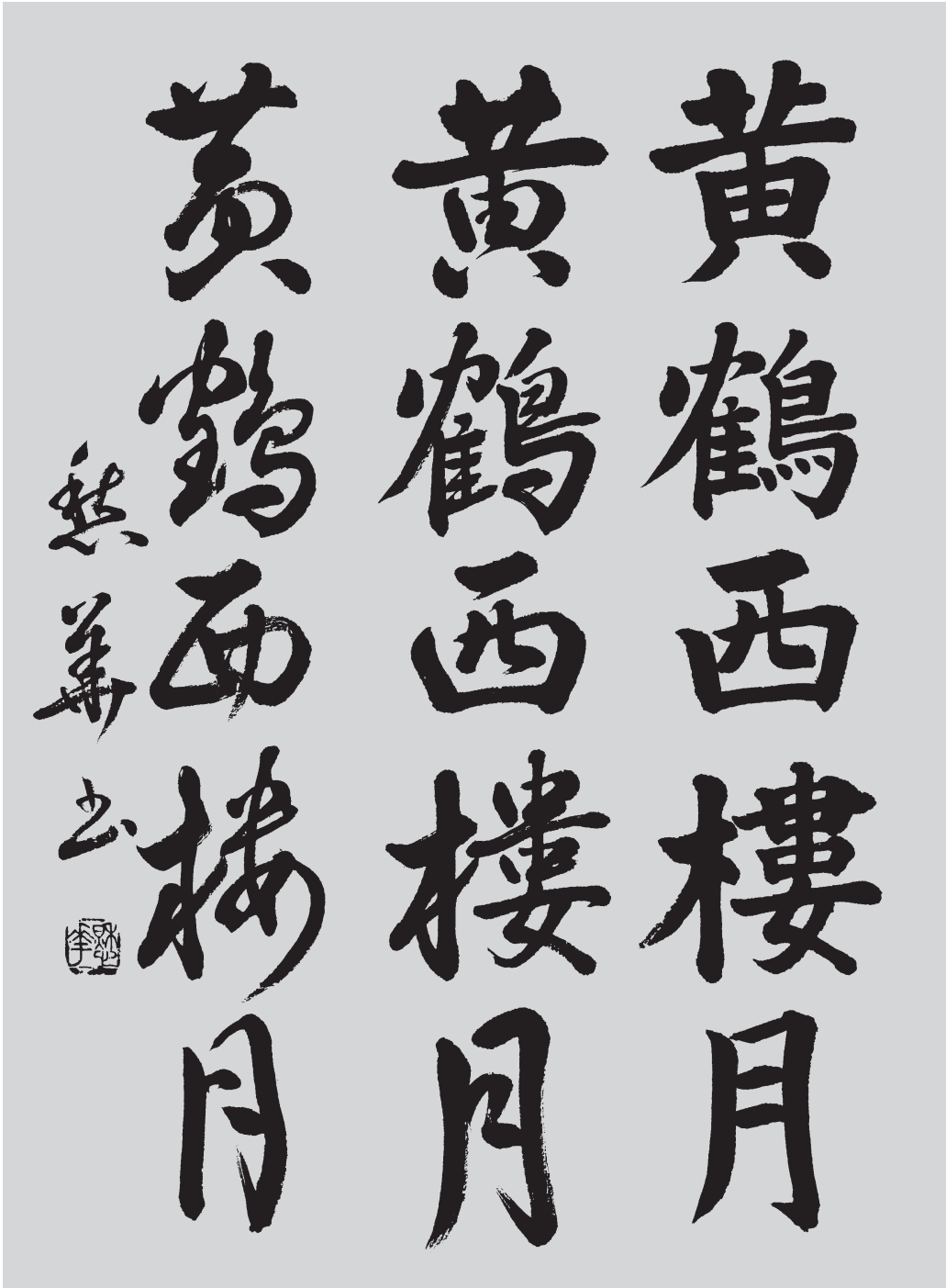
三行散らしの一般的構成、背臨を勧めたい。変体なが含まれない上に、現代調の表出。漢字かな交じり書的である。一行目の「焼」の草体を賑やかにして右群のポイント。渴筆部分となる「あかし」では、「し」が生命線、左群では「き」「風」に活きの線を表出した。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

石田愁華先生書

黄鶴西樓月(李白)
こうかくせいろうつき
黄鶴西樓の月



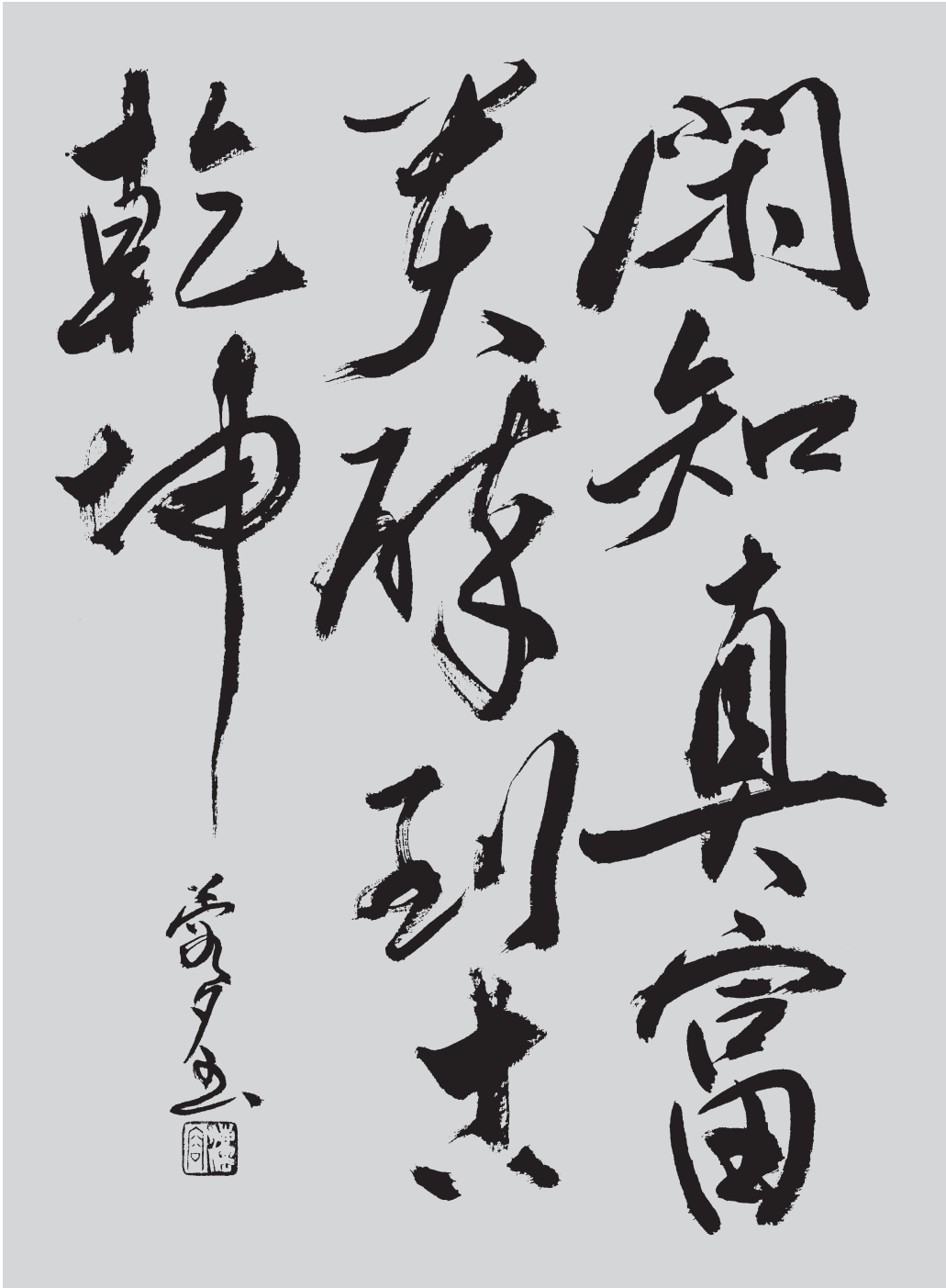
訳：かつて黄鶴の西樓に輝いていたあの月。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

佐野蓉夕先生書

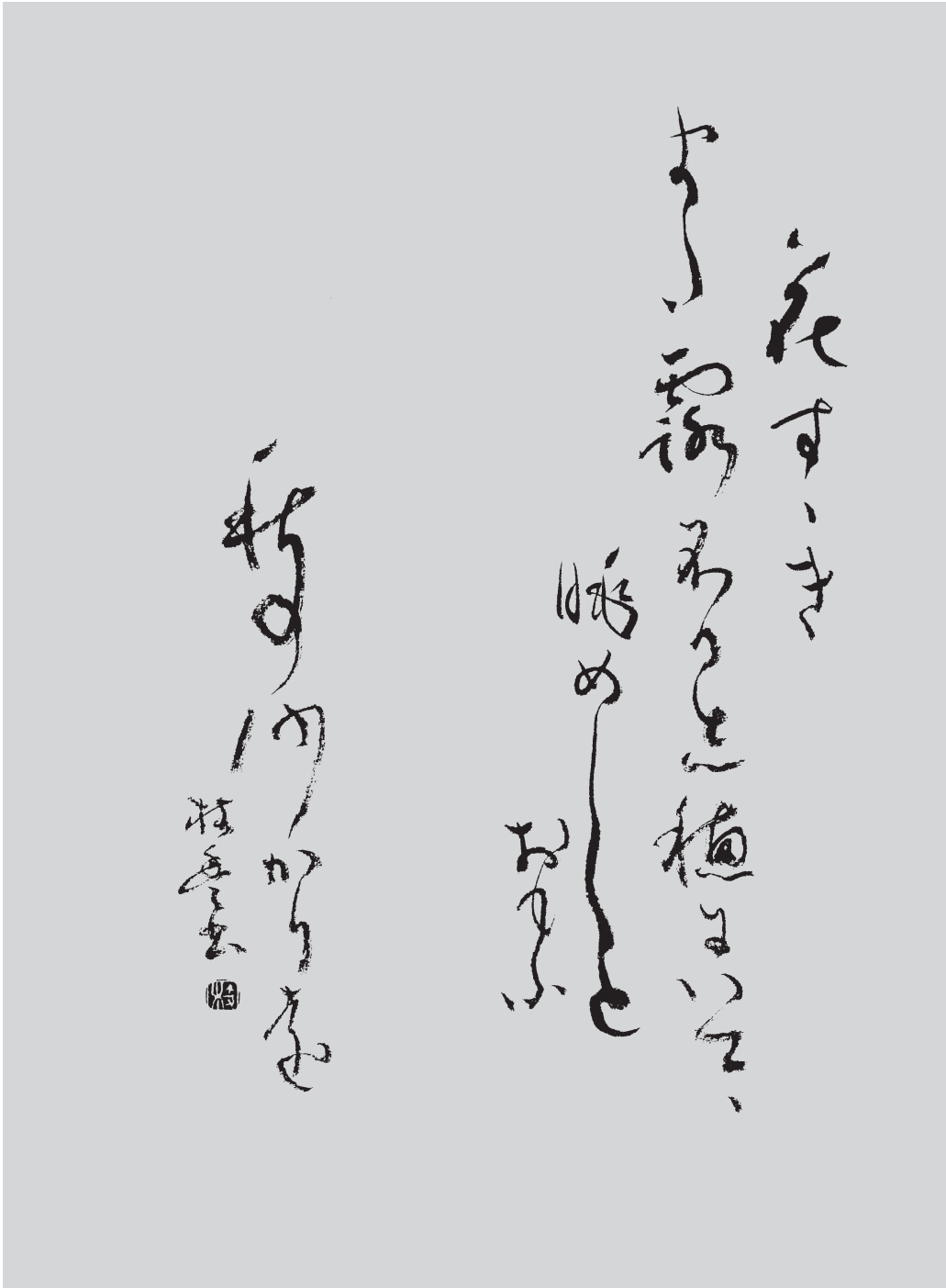
閑知眞富貴。醉到古乾坤。(葛天民)
閑は知る眞富貴、酔い到る古乾坤。



訳：清閑は眞の富貴で閑に勝るものはない。酒を酌めば酔うて太古の天地に帰るようを感じる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考



鈴木枝豊先生書

花すゝき又露ふかしほに出でてながめじとおもふ秋のさかりを
花すゝき末多露不可志穂尔いて眺めしとおもふ秋のさかり遠

(新古今和歌集 式子内親王)

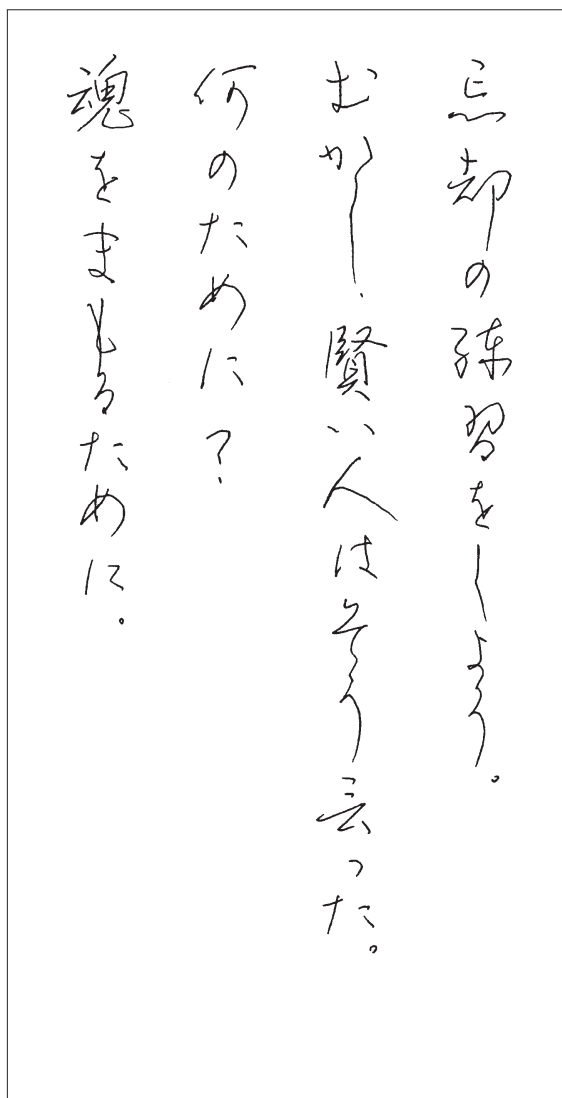
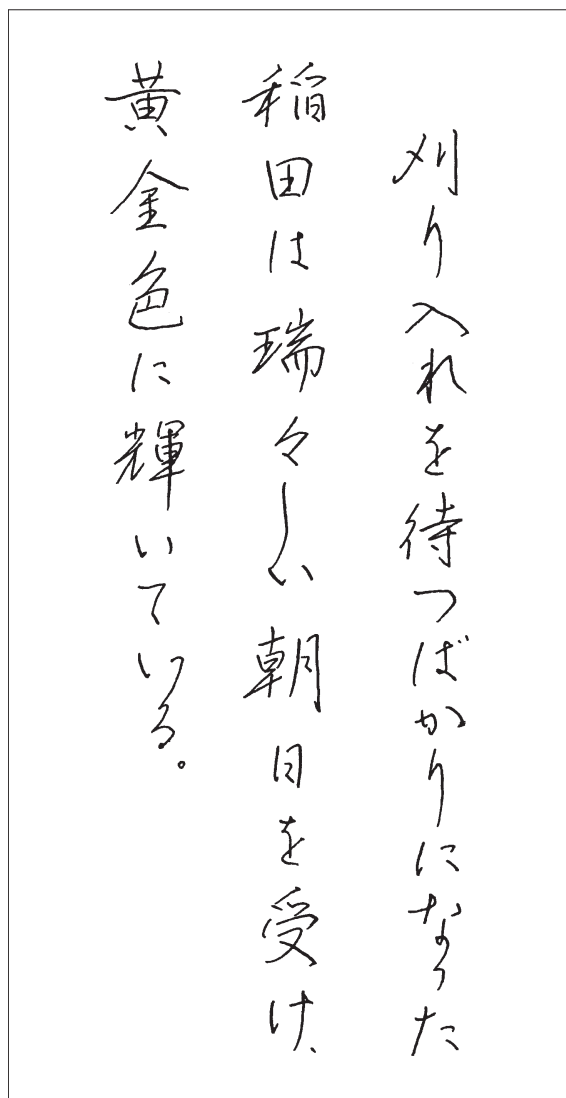
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

石原春香先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

忘却の練習をしよう。
 何かし、賢い人はそう言った。
 何のために？
 魂をまもるために。
 「一日のおわりの詩集」 長田 弘
 Passing By の一節

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題 2 (初段階以下)

刈り入れを待つばかりになった稲田は瑞々しい朝日を受け、黄金色に輝いている。

「手毬」 瀬戸内寂聴